

地域包括支援センターだより



〈問い合わせ〉地域包括支援センター
(役場 健康推進課内) TEL(62) 8222

認知症サポーター養成講座

本村においても高齢化が進むと共に認知症の方も増えて来ています。認知症の方を家族だけで支えるのには限界があります。

3月16日、長陽温泉センターウィナスにて、認知症サポーター養成講座（村地域包括支援センター主催）を開催し、24の方が新たに認知症サポーターとして誕生されました。

認知症サポーターとは、認知症サポーターキャラバンメイトが行う認知症に関する講習会を受け、認知症を正しく理解し、困っておられる当事者や家族に心をかたむけるボランティアです。

認知症サポーターの具体的な活動としては、認知症に対する正しい知識を維持し続け、さりげない地域の見守りが主であり、認知症サポーターさんの目印はオレンジリングです。

オレンジリングを見たら、身近な認知症について考えてみましょう。



南阿蘇村商工会

みなみあそ「くらしのめぐみ」プロジェクト

村商工会では、平成26年度の事業として、「みなみあそくらしのめぐみ」プロジェクトに取り組みました。

村内で生産された農産物などを使った農産加工品などについて、南阿蘇ブランド商品として村内外に発信し、販路開拓を目指すのが目的です。

本年度は、専門委員会を組織し、南阿蘇のブランド化対象商品の収集やテストマーケティングを行いました。会員の皆さまからブランド商品の希望を募り、各事業所1品程度に絞って12品目を選定しました。各品目には推奨品としての認定シールを貼り、村のブランド化対象商品として村内の物産館でテスト販売するなど、消費者の方々にアピールをしています。

今回の試みは食品に限って行いましたが、平成27年度からは、料理やその他の農産品などにも対象を広げる予定です。また厳選された本村の産品には、認定審査基準を作ってプレミアム認定シールを貼り、秀逸な産物として広く消費者に訴えられるよう準備しております。

本事業で、「南阿蘇村」という地域ブランドを確立しつつ、本村の産品に対する顧客の愛顧、信頼を獲得し、「南阿蘇村」自体がブランドであるというイメージを作るために基本的なイメージロゴも作りました。

「あそのみなみのみなみあそ」ただのいなかじやなかよ」をキャッチフレーズに、将来的には、本村の地域自体が自然の恵みを受けた「ぜひ行ってみたい場所」として観光のメッカとなるよう、またそこから生産されるものがブランド品として都会の消費者に認知されるよう事業を進めていきたいと考えています。



本年度選定された商品



物産館に展示された村特産品